



メッセージ

「人間の復興」のため、女性たちにさらなる支援を

東日本大震災から2年過ぎた今、被災地では様々な女性たちが声を上げ始めています。地域で新たなネットワークを作ったり、事業を始めたりという新たな動きが生まれ、女性が復興の主体として地域に活力をもたらしています。しかし、その一方で女性の雇用は進まず、最近では女性の求職者が減少する傾向さえみえています。被災女性の現状について、よりきめの細かい把握が必要です。

また原発事故をきっかけに健康被害を避けるために各地へ避難した家庭（多くは避難母子）に支援が行き届かず、就職もままならない状態です。全国に点在するこうした離散家族、避難した人々の声を聞き、支援を急ぐ必要があります。

被災地では、DV相談が増加傾向をみせています。用地不足等から復興住宅の建設はなかなか進まず、狭い仮設住宅での生活によるストレスはより高まると考えられます。表立って声を上げられない女性の存在や、男性の孤独死、孤立死の多発も懸念されます。これまで以上に細やかな支援体制を実現することが急務です。

こうしたサポートは、ひとりひとりの被災者の生活再建を中心に置いた「人間の復興」の基盤であり、地域生活の「主役」である女性たちは、その重要な主体です。私たち「東日本大震災女性支援ネットワーク」は、様々なかたちで復興に力を尽くす女性たちを支援し、また、困難な状況にある被災女性たちへの支援を広く訴えます。

●ネットワークの活動

2011年6月の発足以降、東日本大震災女性支援ネットワークでは、支援者への調査や、女性・子どもに対する暴力事例調査、災害とジェンダー・トレーナー養成講座、東日本大震災における女性や多様な主体を中心とした支援の事例集づくり、これらの活動を生かした政策提言活動や被災地の女性をつなぐ情報発信などを行ってきました。これまでの活動の成果物を下記にご紹介します。ご関心のある方、どうぞお気軽に事務局にお問い合わせください。

- 『こんな支援が欲しかった！～現場に学ぶ、女性と多様なニーズに配慮した災害支援事例集』
- 『東日本大震災における支援活動の経験に関する調査報告書』
- 「復興計画・復興政策に組み込むべき提言」、「国・自治体の「防災計画」への提言」
- 竹信三恵子・赤石千衣子編『災害支援に女性の視点を！』（岩波ブックレット No.852）
- 女性・子どもに対する暴力事例調査結果（近日刊行予定）
- フォトボイスの展示会、報告会（国内外各地）

3年目も、女性・障害者・外国人、性的マイノリティなどの多様な人々の人権が災害時において尊重されるよう、全国各地での防災研修、ネットワーキング、政策提言、情報発信などを続けていきます。これからも東日本大震災女性支援ネットワークをどうぞ宜しくお願いいたします。



Rise Together

東日本大震災女性支援ネットワーク
Women's Network for East Japan Disaster

<連絡先> 東日本大震災女性支援ネットワーク

住所：東京都文京区向丘 1-7-8 TEL/FAX：03-3830-5285 E-mail:

office@risetogetherjp.org Web: www.risetogetherjp.org twitter: @risetogetherjp